

丹後織物

No.
828

2013.1.15

本年度の目標

- 機業振興及び経営安定
- 産地ブランドのPR強化

TANGOORIMONO

発行所 丹後織物工業組合 京都府京丹後市大宮町河辺3188 TEL0772-68-5211 FAX0772-68-5300 <http://www.tanko.or.jp>



きもの学(楽)ネット 京都三条大橋にて「きものジャック」に参加

加見心



理事長

渡邊

正義

副理事長

小林

英貴

副理事長

篠村

頼和

常務理事

野村

政伸

先染代表理事

三宅

貞夫

代表監事

田茂井

康博

主な内容

新年のご挨拶

「京の名工」に川戸久幸氏

1

年男男女女

総代選挙執行

6

総代選挙執行

求評会審査講評

7

くろーずあつぷ・丹後人

丹後・西陣両産地商況懇談会

12

フォトコンテスト&きもの川柳入賞者決定

17

13

明日への足掛かりの年に



丹後織物工業組合
理事長

渡邊 正義

あけましておめでとございます。組合員の皆様には、ご清祥のうちに新しい年を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

さて、昨年はエネルギー政策、税制改正、領土問題、沖縄米軍基地問題、TPP問題など数々の問題に直面し、その対応など様々な課題を残したまま衆議院の解散総選挙となり、選挙の結果、自由民主党の圧勝で幕を閉じました。新政権には諸問題を速やかに、そして慎重な議論のなかで解決し国民の生活・経済が安定するような施策の実施を期待するところであります。

日本経済は世界経済の減速等により足踏み状態が続いており、加えて電気料金の値上げが予定され今後も生産や雇用に大きな影響を及ぼすことが懸念されます。和装業界におきましても将来不安からくる消費マイナムの冷え込み、さらに来年予定されている消費税率アップの影響から、小売り段階で

の販売不振をもたらし業界の縮小やコスト削減による生産の空洞化をますます加速させるのではないかと懸念しております。

丹後産地の昨年の白生地生産量は年間を通して減産基調で推移しましたが、生産目標である45万反をクリアしました。品種によって増減はあるものの、総じて需給のバランスはタイトになっており、全体的には大きな落ち込みがなかったのではないかと考えています。本年におきましても引き続き商況に好天の兆しが見えないなか、昨秋より生糸価格も高騰し採算面で厳しい状況が続いておりますが、取引条件等の改善や安定した受注量の確保に向け、より一層努力しなければなりません。

先染織物におきましては長引く不況により低工資操業の問題が厳しさを増すなか、織手の高齢化が進み設備の老朽化への対応もままならず、廃業や規模縮小を余儀なくされています。組合としましては昨年末に西陣織工業組合を通じて

て織物工賃の改善を要請するなど組合員事業場の経営改善に力を注いでいるところであります。

組合の事業におきまして、加工事業では組合の加工シエアが徐々に向上しており、さらに営業活動の強化や技術力の向上を図っていきたく思っています。指導事業は組合員の減少等により厳しい状況ではありますが、昨年は行政の支援のもと首都圏にて丹後産地の総合展示商談会「丹後フェアブリックマルシェ」を開催しました。丹後産地の単独展として集客、宣伝に不安もありましたが、多くの方々にご来展いただきなかくで各出展者が積極的に商談等を行い、新規販路開拓、丹後織物のPRとともに新たなものづくりに役立つ情報を得るなど成功裡に終えることが出来たのではないかと考えてお

ります。当事業の継続的な開催により、引き続き多種多様な、そしてクオリティの高い織物総合産地「丹後」をアピールしていきたいと考えております。

また、個々の機業あるいは機業間が連携した商品開発を基に百貨店等で展示会を開催し、新しいものづくりや市場開拓に取り組み動きが活発化してきています。本年の干支「巳」年は、草木の生長が極限に達した次の生命が作り始められる時期、いわゆる種ができればじめる年とされており、このような活動が明日の産地を切り拓く種となり、大きく結実することを深く願うものであります。

どうか組合員の皆様の更なるご支援ご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

京都の持つ「力」を生かし、「オール京都」で明日を切り拓こう



京都府知事

山田 啓二

府民の皆様、あけましておめでとございます。

昨年は、ロンドンオリンピック

での京都府ゆかりの選手の活躍や、京都大学 山中伸弥教授のノーベル賞受賞など、府民にとつて

大変誇らしい出来事であった年でありました。その一方で、痛ましい交通事故の発生や南部地域での豪雨被害、停滞する経済と厳しい雇用環境、生活保護受給世帯の増加、原子力発電所の安全性をめぐる問題や節電対策など、多くの課題が生じた年でもありました。

昨年の衆議院議員選挙では、エネルギー問題、消費税増税問題、TPP交渉参加問題などを巡って国論が二つに割れ、また領土問題など「対立」が目立つた年でもありました。だからこそ、今年は和をもつて貴しとなす、この言葉を実践する年にしたいと思えます。困難な課題が多く、難しい判断が求められますが、已年となる今年は、蛇行することはあっても、着実に前に進んで行きたいものです。そのために、私もはこれまでに以上に「熟議」し、その上で「判断」し、みんなが心を合わせ、困難に向かつて「行動」していかなければなりません。

幸い、京都には、さまざまな機関や団体、そして府民の皆様が連携し、協力して大きな力を発揮するということ「オール京都」の風土があります。この「オール京都」による取り組みは、昨年モ「古典の日」の法律制定や、「和食」の世界無形文化遺産登録に向けた活動、「京都産業育成コンソーシアム」による中小企業支援、高齢者の方々

が住み慣れた地域で安心して暮らせるようにするための「京都地域包括ケア」など、すでに多くの分野に及んでいます。

また、地域に暮らす皆様が協働して地域づくりに取り組む「地域力再生プロジェクト」は、この六年間で三千件を上回り、身近な道路などの改善を府民の皆様の提案により行う「府民公募型安心・安全整備事業」は、この四年間で四千五百件にも上るなど、府民の皆様との協力によって地域を豊かにする取り組みが進められました。府民の皆様お一人お一人が、夢と希望を抱き、生きがいを持って暮らせるような京都をつくっていくためには、こうした取り組みを、府政運営の三つの基本方向である「府民安心の再構築」、「共生社会の実現」、「京都力の発揮」にそって活かしていくことが必要です。

京都には、伝統文化の力やブランド力、人材やものづくり産業、学術研究の蓄積などの未来を創造する力といった比類なき「力」があります。本年三月には、京都縦貫自動車道の沓掛・大山崎間が開通し、二六年度には全線開通を迎えるとともに、北近畿タンゴ鉄道の再生やJR奈良線の環境整備を進めることで、府民の皆様のをさらに結集できる条件が整ってきます。

日本全体が大きな構造変化に直面し、未来への道筋を見いだせない

今、京都の持つ「力」を存分に発揮するためにも、今年の合い言葉は「オール京都」でいきませんか。

年頭所感



京都織物卸商業組合
理事長
小澤 淳 二

2013年を迎えることができ、一昨年（2012年）の3月に発生いたしました東日本大震災から2年近くが経過いたしました。2010年を底に、回復しつつあったファッション消費は、震災直後、一旦勢いを落としたものの、復興需要にも支えられ2011年後半から持ち直し、私どもの業界も少し落ち着きを取り戻しつつあります。しかし、相変わらずの円高・デフレ基調は日本経済に影響を落とし、ファッションの市場規模は、金額ベースでおよそ8兆7000億円と、この10年間で7%の減少、約6000億円の落ち込みとなり、足下の状況は震災後の昨年より厳しい状況になっております。

この一年の、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

消費者の可処分所得の減少に伴った消費需要縮減に対して、メーカー・流通における低価格競争・

安売り志向へシフトする傾向が一段と強まり、京都の企業においても、一部同調する動きが進んでいると感じております。安くつくり、安く売ることで活路を開こうとしておりますが、価格競争による低価格化が、低品質・低級品、鮮度の落ちたデザイン、ファッション性の劣化という、ファッション性の劣化という、京都の和装が育んできた「品格」を貶めるコモディティ化を拡大しかねないかと危惧しております。経済産業省では「価格競争から価値創造競争」に視点をいたした潜在需要の掘り起こしを図る転換政策を推進していますが、まさに私ども業界においても、価値創造競争、価値形成志向へのシフトを強める必要があります。価値創造・価値形成は、しかしながら、作り手、売り手にとどまらず、買い手である和装使用者の

価値形成・価値実感にも目を向けねばなりません。すなわち、顧客の消費価値観をしっかりと支える価値創造こそが、潜在需要を掘り起こす最重要課題です。生活シーンの多様化に沿った着装シーンの創造的開発によって、フォーマル着や晴れ着などの正装需要に集中するだけでなく、気軽な交流会や外出に品よく装う外出着の新しいジャンル、日常生活での普段着ジャンルなど需要創造型の生活シーン開発と和装生活価値観の社会的支持の仕組み、それに対応できる商品デザイン、製品作りと流通システムの開発に一層取り組みを進める必要があります。

京都のモノづくりに蓄積された

新年ご挨拶



西陣織工業組合

理事長

渡邊隆夫

新年おめでとございます。清々しい初春をお健やかに迎えられるましたこと、心からお祝い申し上げます。

平素は、西陣産地に格別のお引立てを賜わり厚く御礼申し上げます。巳年の新春を迎え、心機一転の気分ですが、中小零細企業、殊に

さまざまな優れた技法、技能、技術に加えて、時代に即した和装生活を実現化する創造的なデザイン力などを活性化し、「京和装の品格」を維持発展させる産業活力とモノづくりのシステム連携を強化することが必要だと考えております。

景気が後退側面に入ったのではないかと観測される大変厳しい状況ではありますが、業界の発展に向け、価値創造・価値形成の具体的な戦略・戦術の開発を進め、持続的な和装産業の形成と顧客創造・市場づくりに取り組んで行かなばならないと思います。本年も、よろしくご指導ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。

地場製造産業界は引続き、厳しい試練に立たされています。

さて、昨年を振り返りますと、驚異的なデフレで、大企業はもとより中小零細企業に至るまで経営危機に陥りました。また、夏には、近時最大級の台風が全国を縦断・記録的な災害が発生する等、国民

は脅かされました。

一方国政は、政局問題が山積するなか、年末の電撃解散で、従来の既成政党に加え、新党が乱立する中、衆院選が行われ、新政権が誕生し、新たな歩みを始めましたが、経済をはじめとして、国民に不安を与えている昨今であり、新政権に期待するところでありませぬ。

我々西陣業界は、昨年、西陣の呼称が生まれて545年という節目の年を迎え、「技能者」「関連工業」「機料品店」等を称えたところでありませぬ。しかし相変わらず和装・洋装を問わず、厳しい経営が続き、加えて関連工業界を含めて、職人の高齢化・後継者難、さらに西陣織を支える道具類の枯渇化問題、また、生産基地丹後における工賃問題・生産基盤の安定強化問題等、難問が山積している現状で

逆境を跳ね返し、前へと進む一年に



株式会社 京都銀行

取締役頭取

高崎秀夫

2013年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

デフレからの脱却や超円高への対応、エネルギー問題、社会保障制度改革など数々の重い課題

あります。西陣産地は、この困難に挫けることなく、現実に果敢に立ち向かい、消費者に親切なモノづくりに努め、市場に適合した生活文化を創造し、提案できる知識集約型産業へ向けて邁進いたします。

そのためには、応仁の乱の後、雄々しく立ち上った、先人の偉業に思いを寄せ、国・京都府・市のご指導のもと、消費者本位の安心・信頼の産地共同体として、地域の発展に引き続き努力いたす所存であります。この責任と義務を組合員が果たせるよう、公的組合としての責務を遂行し、地場製造産業の振興と、京都の発展に努めます。本年も何卒よろしくご指導、ご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。新年のご挨拶に代えさせていただきます。

を背負って新しい年がスタートしました。

バブル崩壊後の長期低迷に苦悩するわが国ですが、歴史を振り返りますと、明治維新後の地盤沈下に苦しみながらも、知恵を絞って、その難局を打破したのが京都でした。当時の京都は、東京遷都によって、著しい人口減少や産業衰退に見舞われて、かつて江戸・大阪と並び称された三都としての輝きを失いつつありました。

しかし、これに強い危機感を持った京都では、今年のNHK大河ドラマ「八重の桜」で登場する新島八重の実兄で、京都商工会議所会長を務めた山本覚馬の協力を得て5大政策を制定し、舎密局などの勸業施設を建設し、疏水を切り開いてわが国初の水力発電所を建設したほか、路面電車などの鉄道網の整備などにも取り組み、これが再び輝きを取り戻すきっかけとなりました。

そしてもう一人、明治期の京都ゆかりの人物で忘れてはならないのが、間人出身の松本重太郎であります。丹後地方ではご存知の方も多いと思いますが、十歳にして志を胸に単身で間人から京都へ丁稚奉公に出て、その後大阪で独立、やがて鉄道、紡績、ビール会社などを次々と創り出した当時関西を代表する大実業家です。また第百三十国立銀行の頭取として、人

物本位”を徹底した経営方針で、今でいうベンチャー企業の育成支援にも取り組んだ人物です。後年、残念ながら全ての事業から身を引くこととなりますが、彼がつくった企業のいくつかは大企業に成長して今なお存続しておりますし、第百三十国立銀行を通じた支援によつて発展の礎を築いた企業も少なくありません。

いま、こうした明治期の先人たちの思うとき、大きな志を原動力にして、どのような難局に直面しても気張って仕事に取り組み、逆境を気概で跳ね返し、前へと進み続けた姿が浮かびます。明治維新から140年以上の時を経て時代は大きく変わりましたが、「世界との競争」という意味では、「開国」間もない当時は計り知れない危機感があったのではないかと思います。

産地組合としての源流を明治18年まで遡り、大正10年の創立という伝統を誇る貴組合には、こうした「明治人」のDNAが脈々と受け継がれていることだと拝察いたしております。新たな年を迎えるにあたり、先人の志や気概を地域の皆様とともに共有し、地域のよきパートナーとして未来を切り開き、前へと進んでいきたいと願っております。

何とぞ、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

年頭所感



株式会社 商工組合中央金庫
京都支店長

芳原邦光

平成25年の新春を迎えるにあたり、所感の一端を申し述べて年頭のご挨拶とさせていただきます。

まず、昨年の経済を振り返りますと、わが国の景気は東日本大震災からの復興や、タイの洪水からの挽回生産、エコカー補助金の復活などにより、春頃まで持ち直しの動きを見せました。しかしながら、その後は欧州や中国経済の減速、長引く円高などによる輸出の減少に加えて、エコカー補助金の終了といった政策による押し上げ効果の剥落といった要因等により、国内景気は厳しい状況にあり、先行きの不透明感も強くなっております。中小企業の景況については、当金庫の「中小企業月次景況観測」でみますと、景況判断指数は平成24年3月に48.7と東日本大震災以前の水準近くまで回復するなど、一時は持ち直しの兆しが見えましたが、その後は一進一退を繰り返しながらも緩やかに低下してきてきた。

このような環境のもと、商工中

金は、東日本大震災からの復旧・復興に取り組み中小企業の皆さまや、円高等の影響により当面の資金繰りに不安を抱える中小企業の皆さまに対し、危機対応業務を中心に、組織をあげてセーフティネット機能の発揮に取り組みしました。平成23年5月より取扱いを開始した東日本大震災復興特別貸付については、3万5千件、1兆9千億円を超え、これらを合せた危機対応業務全体の累計実績は制度開始以来、12万2千件、7兆5千億円を超える規模となりました。こうした、中小企業の皆さまの資金繰りや経営の安定化へのサポートを通じて、地域の雇用維持・経済の安定に大きく貢献することができました。また、中小企業の皆さまの企業価値向上に向けては、成長戦略総合支援プログラムを活用するなど、全力でサポートしてまいりました。同プログラムは、昨年10月に上方修正した「3年間で5千億円の成長マネー供給」という目標に対し、累計実績で8千件、

4千5百億円を超えるなど着実に成果を上げることができました。本年も先行き不透明な金融・経済環境が続くことが予想されますが、商工中金としましては、引き続き皆さまからの「ご相談」に対して、懇切、丁寧かつ迅速な対応に努め、危機対応業務を中心にセーフティネット機能の発揮に全力を挙げて取り組んでまいります。また、お取引先の皆さまが抱える経営課題に対してはその解決に向け、質の高いソリューションを提供するなど、皆さまと一緒にこの厳しい局面を克服し、ともに成長してまいりたいと思えます。

「中小企業の、中小企業による、

地域元気宣言



京都北都信用金庫

理事長

森屋松吉

平成25年の新春を迎え謹んで新年のご挨拶を申し上げます。平成24年を振り返りますと、春先までに震災復興需要やエコカー減税の効果等から上向きの動きがみられました。夏頃からは輸出・生産の落ち込み等、景気後退の動きとなり、政治不信も重なり、日本中

中小企業のための金融機関」として、これまで以上に皆さまから信頼され、お役に立てるよう、役員一同、全力で努力を続けてまいりますので、今後とも格別のご指導とお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。年頭にあたり、皆さまのご繁栄とご健勝をお祈りいたしましたこと挨拶いたします。



に閉塞感が漂う状況となっております。

京都北都信用金庫は、一昨年創立110周年、昨年5金庫合併10周年と節目の年が続く、本年は、新たなスタートの年となります。従って是非とも飛躍の年にしたいと考えております。昨年スタート

した中期経営計画では「地域元気宣言」を掲げ、「地域を元気にする」活動に取り組んでおります。当金庫の役割は、京都府北部に本店を有する唯一の地元金融機関として、長期的な視点に立って地域経済社会を豊かで持続可能なものとするために、金融面においてお客さまの課題解決の支援を行うことにあります。なお、金融円滑化法が本年3月に終了しますが、当金庫はこれまでと同様の対応を行っていくこととしております。また、ほくと信金としての独自性を発揮していくこととしております。かつてない厳しい経済環境の中、地元金融機関として今、何をすべきかを考えた時、「取引先であるお客さまのお客さまを紹介すること」が、重要であると考えることとなります。お客さまを紹介することにより、お取引先の売り上げが伸び、収益が上がることを期待いたします。

具体的には、京都信用金庫と共催による「地産地消マッチング商談会」の開催や東京ビジネス・サミットへの参加、全国の270信用金庫に呼びかけの観光誘致、天橋立を世界遺産にする会や細川ガラシャなど主人公のNHK大河ドラマ誘致推進協議会に対する支援等、幅広い活動を行っております。

織物業界は、東日本大震災の影響もあり、和装需要の縮小が続い

ております。

一方、知人からの情報によりますと、近年、東京や仙台等でも着付け教室に若者が通い、日本文化に関心を持つ動きがあるとのこと。ですし、当地域においても、織物の技術を活用した新製品の開発や若手経営者による丹後ちりめん需要開拓への取り組み等、積極的な動きもみられます。ほくと信金は、地元金融機関として、織物業界の皆さまとともに、すばらしい織物の技術のPRや観光客誘致を行っていきたくと考えております。

何とぞ、本年もご愛顧をお願い申し上げます。年頭にあたり、皆さまのご繁栄とご健勝をお祈りいたします。



「丹後ちりめん」から初の受賞!!

「京の名工」に川戸久幸氏



平成24年度京都府伝統産業優秀技術者表彰「京の名工」の受賞者として、川戸久幸氏(京丹後市弥栄町)が選ばれ、去る11月30日京都府公館にて山田啓二京都府知事より表彰を受けられました。

「京の名工」は、多年にわたり京都府内の伝統産業に従事し、その振興と発展に寄与された技術者の方々に与えられる大変名誉ある賞で、本来、熟練した手仕事の技術をもって、他の技術者の模範となっていることが要件の一つとしてあり、これまで力織機で織る丹後のちりめん製織業者の受賞は難しいとされてきましたが、水然り八丁燃系機による原料加工、整経、製織等をすべて川戸氏本人によって行い、高品質な丹後ちりめんを製造し続けていることなどが評価され、「丹後ちりめん」の分野からは初めての受賞となりました。

川戸さんは、昭和44年に家業の製織業に従事してから43年にわたり生系の燃系・整経・製織まで自社一貫工程により品質の高い平織り無地ちりめん全般の製織を行うとともに、一見、紋織物にも見える無地ちりめんや反物を裂いて織り込む裂き織りなど、ジャカードによらないオリジナル商品の開発に今なお意欲旺盛に取り組み、その技術力は産地内でも高く評価されています。「身に余る光栄であり、これも数多くの先人や関係の方々のお陰と大変ありがたく感謝しております。今後もさらに精進し励んでまいりたいと思っております。」と受賞の喜びを語られています。

これからますますのご活躍を期待しております。

2013年 奮起の年

本年の年男、年女の方々に今年の抱負を伺いました。



理事
(有)松本機業
松本 博之氏
(大宮町)

ここ数年、現場での高齢化、又機械等の老朽化が急速に進んでいる。

零細企業の集まりである当産地では個々の力は限りなく小さい。組合不要論が言われた時代もあったが、今こそ産地を守るために組合で何が出来るのかが問われているように感じている。



総代
足達公一郎氏
(網野町)

新年のご挨拶を申し上げます。日頃、ご愛顧いただき、誠にありがとうございます。「丹後織物を通じて、人々が幸せでありますように。」

2013年は、丹後国建国1300年。あしぎぬ 緞(739年)。手米屋小右衛門翁(～1748年8月19日)。山本屋佐兵衛翁(～1750年1月1日)。木綿屋六右衛門翁(～1746年9月7日)。森田治良兵衛翁(1683年3月～1744年11月3日)。

丹後織物の原点を見つめ直し、皆さまの信頼にお応えしたい。

よし、明日から!と気構えてみても、なかなか.....どうして.....ハードルが.....だんだん.....上がっていく。

さらりとざっくばらんに気負わずに、できることから少しずつ行動していこう。牛飼いが、他人の牛を数えているように。と、ならないように。

今年もよろしくお願い申し上げます。



絹友会
由里 直樹氏
(与謝野町)

年男、頑張ります。



丹後きものセンター
大橋 明子氏
(網野町)

自分自身を磨き、巳(魅)力ある人となり、より喜ばれる店作りをしたいと思ひます。

年男 年女

総代選挙執行

丹後織物工業組合では、来る2月25日任期満了となる総代の選挙を2月6日全地域一斉に行います。
各選挙区の定数および各選挙区の選挙管理委員長、選挙管理人並びに総代選挙の主なスケジュールについては次の通りとなっています。

投票日

2月6日(水)

候補者届出

1月29日~31日

総代定数表

平成25年2月総代選挙

白生地

業態 区域	委託者		受託者		計	
	現行	改定	現行	改定	現行	改定
与謝野町加悦地区	7	7	3	3	10	10
与謝野町野田川地区						
綾部市・福知山市 舞鶴市	6	6	3	3	9	9
与謝野町岩滝地区	2	2	1	1	3	3
伊根町・宮津市						
京丹後市大宮町	4	4	2	2	6	6
京丹後市峰山町	4	3	1	1	5	4
京丹後市弥栄町	1	1	3	3	4	4
京丹後市丹後町	3	3	1	1	4	4
京丹後市網野町	15	16	5	5	20	21
京丹後市久美浜町						
合計	42	42	19	19	61	61

先染

業態 区域	委託者		受託者		計	
	現行	改定	現行	改定	現行	改定
与謝野町加悦地区	0	1	2	2	2	3
与謝野町野田川地区						
綾部市・福知山市 舞鶴市	2	2	4	4	6	6
与謝野町岩滝地区	1	1	1	1	2	2
伊根町・宮津市						
京丹後市大宮町	2	1	6	6	8	7
京丹後市峰山町						
京丹後市弥栄町	1	1	6	6	7	7
京丹後市丹後町						
京丹後市網野町	3	3	15	15	18	18
京丹後市久美浜町						
合計	9	9	34	34	43	43

小物

業態 区域	委託者		受託者		計	
	現行	改定	現行	改定	現行	改定
管内全域	3	3	1	1	4	4

広幅

業態 区域	委託者		受託者		計	
	現行	改定	現行	改定	現行	改定
管内全域	1	1	1	1	2	2

総合計

業態 品 種	委託者		受託者		計	
	現行	改定	現行	改定	現行	改定
白生地	42	42	19	19	61	61
先染	9	9	34	34	43	43
小物	3	3	1	1	4	4
広幅	1	1	1	1	2	2
合計	55	55	55	55	110	110

地区選挙管理委員長及び選挙管理人

（敬称略）

与謝野町加悦地区

地区選挙管理委員長 安田 和司
選挙管理人

白生地選挙区 木村 博史
先染 " 広瀬 勲

与謝野町野田川・綾部市・福知山市・舞鶴市地区

地区選挙管理委員長 柴田 祐史
選挙管理人

白生地選挙区 池田 寛樹
先染 " 小山 静雄

与謝野町岩滝・宮津市・伊根町地区

地区選挙管理委員長 一色 直樹
選挙管理人

白生地選挙区 小室 寛明
先染 " 三宅 貞夫

京丹後市大宮町地区

地区選挙管理委員長 松本 博之
選挙管理人

白生地選挙区 堀 育夫
先染 " 中西 啓一

京丹後市峰山町地区

地区選挙管理委員長 平井 秀司
選挙管理人

白生地選挙区 吉岡 均
先染 " 中西 啓一

京丹後市弥栄町地区

地区選挙管理委員長 松村 新生
選挙管理人

白生地選挙区 梅田 勲
先染 " 下田 啓雄

京丹後市丹後町地区

地区選挙管理委員長 民谷勝一郎
選挙管理人

白生地選挙区 吉岡 賢二
先染 " 下田 啓雄

京丹後市網野町・久美浜町地区

地区選挙管理委員長 安達 廣司
選挙管理人

白生地選挙区 田茂井康博
先染 " 山崎 正一

広巾（管内全域）

選挙管理人 澤田 尚登（与謝野町）

小物（管内全域）
選挙管理人 梅田 幸夫（与謝野町）

【候補者の届出】

総代に立候補または推薦をしようとする者は、所定の立候補届または推薦届により、各地区の選挙管理人に届出なければなりません。

総代の候補者の推薦には、組合員四人以上の連署を必要とし、被推薦者の承諾を得たうえで届出なければなりません。

なお、届出受付は1月29日午前8時15分から1月31日午後5時までです。

主な選挙スケジュール

平成25年 1月16日 総代選挙執行公告ほか告示

1月21日～25日 選挙人名簿縦覧期間および異議申立期間

1月29日～31日 総代選挙立候補届・推薦届受付期間

2月6日 総代選挙投票日(選挙の場合)

2月25日 現総代任期満了

1. 選挙日から3日以内に当選人に対し総代当選通知を行うとともに、当選人の氏名を公告します。
2. 選挙または当選の効力について異議のある組合員は、通知および公告のあった日から7日以内に、選挙管理会長に対し異議の申し立てができます。
3. 当選人は当選した日から10日以内に「就任承諾書」を提出しなければなりません。
4. その他、詳細については組合本部へお問い合わせ下さい。

第63回 丹後織物 求評会

去る12月12日(水)～14日(金)の3日間にわたり、組合員の販路開拓また丹後産地をPRする「丹後織物求評会」を例年同様、京都市の京都産業会館において「EVOLUTION」心織り成す匠の技」をテーマに開催しました。



初日の12日には組合員31業者より出品された188点の作品について、山田純司氏(京都織物卸商業組合副理事長)を審査委員長に全18名の審査員により、市場性・織り技術などを基準に審査が行われた結果、経済産業大臣賞に「先染石畳市松」(篠春織物株式会社)が選ばれるなど18作品が入賞しました。

また13日には太田昇京都府副知事をはじめ多数のご来賓出席のもとテープカットを行い、2日間に及ぶ展示商談会・一般展示会が開幕しました。

会場には2日間で約700名の業界関係者等の来場があり、組合員から出品された意欲的な作品を熱心にチェックする姿が多く見受けられました。この求評会を通して今後の商談が期待されます。

また企画展として、産学公コラボレート作品展や絹友会チャレンジブース、きぬもよぶPRコーナー、組合加工紹介の展示を行いPRに努めました。



入賞作品

経済産業大臣賞

第2部 先染 石畳市松

篠春織物(株)

中小企業庁長官賞

第1部 紋古代 柞縞

篠春織物(株)

経済産業省製造産業局長賞

第1部 手紡ぎ真綿マフラー

クス力(株)

第3部 シルク エステルシホン

宮眞(株)

農林水産省生産局長賞

第1部 風通一釜 滝縞

篠春織物(株)

近畿経済産業局長賞

第2部 極小立てぼかしメッシュ市松

江原産業(株)

京都府知事賞

第1部 八丁 精華ちりめん

田勇機業(株)

第1部 防染糸帯揚市松格子

前満織物

第2部 虹色縦縞菱更紗

江原産業(株)

全日本きもの振興会会長賞

第1部 白黒お召 洋花唐草

篠春織物(株)

京都織物卸商業組合理事長賞

第1部 変り意匠 羽衣格子

(株)ワタマサ

日本絹人織織物工業組合連合会理事長賞

第1部 真奈衣 絹粋香(市松)

(株)吉村商店

日本絹人織織物工業会会長賞

第2部 玉虫よろけ

(株)宮織

織研新聞社賞

第1部 銀ラメ・グレー立縞

江原産業(株)

丹後織物工業組合理事長賞

第1部 紋紗 蔦

(株)宮織

第1部 帯揚 鮫小紋市松

丸幸織物(有)

第2部 鶴の段

遊絲舎

第3部 ツツキりちりめん

宮眞(株)

第1部：後染織物

第2部：先染織物

第3部：洋装生地

各部門審査講評

第1部（和装着尺）



出品商品に対する意見

全体的に無難な感覚のものが多く思う。あくまで和装用ではあるが、その中で如何に洋っぽくおしゃれ感、モダンさが出るか、トライしてほしい。柄作りに工夫がほしい。

各機業の特徴ある織物がそれぞれあり、興味深い。

全体的に組織の変った生地がもう少しできたらと思います。一部の生地には説明文があったが、簡単な説明がほしい。

夏物、紋意匠関係の種類が少なかつた。

工夫を凝らした面白い作品が多く出品されていたと思います。後染めの仕事がいやらしいと思われ作品が多く、興味深かつた。

例年より無地ちりめんの出品数が少なかつたので寂しい。一期は夏用の商品で面白い素材が多く見られたが、今回はスタンダードな印象を受けた。白のまま審査をしないと好みの色で左右されることが多いと思います。無地感、似たような地紋はできるだけ固めて集めた方が審査しやすい。

当該部門の全体所見

染色、染め方によって大分見え方に差が出ると思うので、何か統一の基準を設けてはどうか。先との企画や産地内での得意分野の連携が必要。全く画期的な織物の登場はなかなか困難であると思うが、燃りの変化、工夫が見られ良いと感じる。

染見本布が添えてあつたので良かった。

毎年と同様商品が出品されていて、新商品が少なく感じました。飽きの来ない、長く着用できるきものがほしいというニーズが高まっています。アフターケアの簡単な商品の開発などにもチャレンジしていたださい。染め屋にとつてなくてはならない大切な部門であるので、我々の励みとしても毎年楽しみに拝見しています。

見しています。染色業者には素材自体のことがよく分からない。頑張っておられる気配が反物から伝わって来るものがあつた。

無地生地と地紋入の生地と別の賞を作つてはどうか。

今後の産地に対するアドバイス

大変厳しい状況だと思うが、ものづくりが何と言つても一番大切なこと、頑張つてほしいと思います。多くの作品を見せてほしい。

このところ、あまり丹後には入っていないが今後も定期的に丹後に入り、営業や消費者の動向、情報を伝え、それに即したもののづくりをお願いしたい。

海外の生地との差別化（特にジャカードの柄と風合）をもっと考えていただけたらと思います。

紋織物の新素材（原料）使用の追求。

生産現場だけでなく、新たな販売チャネルへのチャレンジなどの取り組みも精力的に行つてく

ださい。きもの業界発展のためにお手伝い、バックアップしてまいります。

紋をデザインする難しさ、大変さをお伺いしたが、とても大切な要素なのでチームを組んで若いデザイナーとベテランの紋紙の専門家との連携などが必要かもしれない。

夏物に適用されているような（スカシ）捲えを冬物にも入れられればと思う。

その他

織りと加工の組み合わせで新規なものづくりがほしい。

産地と室町が共存出来る取組体制の確立が望まれます。価格追求は大事ですが、商品の原点追求が大切な気がします。

テーマ付けした共通の商品づくりがあつても良いのではないかと思います。

第1部（和装小物）



出品商品に対する意見

帯揚はサンプルがあつたので、素材として見やすかつた。

当該部門の全体所見

全体的に新しい感がなかつたように思います。

今後の産地に対するアドバイス 各機業は大変でしようが、組合一体となり頑張つていたださい。

第2部



出品商品に対する意見

丹後の技術を継承しつつ新しい工夫、考慮された出品が多く、今後が楽しみです。

今年も積極的な製作に対しては感動しました。先染の地紋様、風合が大変良かったと思います。若者向けの商品が少なかつたように思われ、若い女性を対象とした商品製作もあっても良かったのではないが。

丹後は白生地のイメージが強いなか、先染の商品が多く提案されていることは丹後のものづくりの広さが見えます。

当該部門の全体所見

賞にもれた作品にも良い物が多く、今後とも頑張っていたきたい。

帯については、特別に感動するものが少なかつた。もう少し素材感を感じさせるものがあればと思います。

紋柄の提案に良い作品がなかつたのが残念です。

今後の産地に対するアドバイス

産業全体がとて苦しい時ですが、産地として今後ともこのよくな会を通じて頑張っていたきたい。

大変厳しい折、素材感を生かした商品作りに努力していただきたい。

帯においては意外性の感が見られ消費者を楽しませるような、もつと変化のある物もチャレンジすれば今後が楽しい。御召は立体感のある柄が表されており良い。

その他

スカーフやマフラーなどの小物類の出品が少なかつたのが残念です。

第3部



出品商品に対する意見

もつ少し点数を増やしてほしい。丹後の絹を前面に出してほしい。

丹後ちりめんの産地の割にちりめん商品が少ない。

当該部門の全体所見

出品が2社というのは、ちょっと少ないのもう少しポリウレムがほしい。

今後の産地に対するアドバイス

丹後と言えば、ポリエステルチリメんのイメージが強いので、アパレルメーカーもその辺を考

えていると思います。北陸産のチリメんと差別化とプライスマリットを出してほしい。

その他

今後、シルクがらみ（複合）の企画を期待しています。

シルク/綿 シルク/麻 等世界を見ても、ちりめんは日本 ONLY、中でも丹後に期待します。

来場者アンケート ***** 丹後産地への意見

もつとコラボ展開して広げるべき。和から脱していない。（その他）
 織の技は多岐に亘っていますが、染色に関しては未だ・・・です。ね京の「ほんなり」はもう少し微妙な色、女の色気を引き出す色を工夫してください。（PRESS）
 織のみで見せられる商品の向上に期待します。（染工場・染匠）
 先染御召が面白い。（染加工問屋）
 先染の商品が多すぎる。（白生地問屋）
 出品担当者が分かりづらいので改善してほしい。（前売問屋）
 世界に向けて発信してください。（原系メーカー）
 衣装のベースとしての生地で存在感と価値観が出せるような素晴らしい作品が多く、とても参考になりました。丹後の発展にもつながる仕事が出来たらと思いました。（白生地問屋）
 先染品を中心に呉服販売の最前線に出て行き、直接消費者に売り、評価を得るといふ行動は素晴らしいことだと思つ。（白生地問屋）
 京都室町、西陣への素材供給元から和洋装製品アパレルへの産地としてどんどんアピールしてほしい。その相乗効果として和装界も復興すると思つ。（白生地問屋）
 織柄だけでも様々な絵柄の表現ができることに改めて感じました。男性用の物にも力を入れてるのが嬉しい。（その他）
 一部の帯柄が少し新しさに欠けている。（小売専門店）
 もつと若い人達に多く見てほしいと思つています。（その他）
 小紋を作る上で新しい感覚のものがあれば良いと思つ。（染加工問屋）
 メンズ提案が良かったと感じます。（前売問屋）

くろーずあつぷ・丹後人!

...丹後先染織物の確立を...



篠春織物株式会社 常務取締役 篠村雅弘さん

今回、第63回丹後織物求評会にて経済産業大臣賞を受賞された篠春織物株式会社を訪問して、受賞作品を製作した篠村雅弘氏に受賞の喜びを語っていただきました。

経済産業大臣賞を受賞した「先染 石畳市松」は、緯糸に2色の糸を使うと混ざったように見せつつ角度が変わると2つの色がはっきりと浮き出てくるのが特徴です。

作品づくりのきっかけは最初、似たような柄があつてそれを自分好みにアレンジしたいと考えていたときに丁度、高島屋京都店での展示即売会「丹後の職人展」に出品することになり、20色ほど試験織りをしました。このときのテーマが「自然を纏う」ということで丹後の四季をイメージした4色を出品し、求評会には他の1色を出品したということで、この作品は求評会だけでなく色んな取り組みの中で出来たものです。

これまで小売での接客の際に、きものを着た人を別の人が相対して見ると実際に着た人が上から見るのではイメージが変わるといふ方がおられ、周りは良く似合っていると云ってモ本人は納得がいかない、やはり売る側がどれだけ良いと言つても着た本人から見ても綺麗でなければならぬということが常に頭にありました。そういう意味でも、他人から見



ても自分から見ても綺麗で楽しい商品が出来たと思つていました。実際に第三者の評価を知りたいという思いも込められた出品しました。何か賞に入れば良いかなと思つていましたが、まさかこのような最高の賞がいただけ嬉しく思います。ただ、賞をいただいても売れないければ意味がないので、これからどのように売っていくかが大事になります。白生地織物と比べ先染織物は完成品で付加価値の高い商品なので、大事に育ててこれからの丹後産地を支えていく商品の一つにしたいと考えています。丹後の先染織物も増えているみたいですが、流通の中で機屋として存続していくためにはどれぐらいの利益が必要かを良く考え、必要な安売りをして自分達の首を絞めないことを願います。

商品としては2色の糸の組み合わせなので、さらにたくさん試織してその中で面白い色を探したり、この商品を基に色々なバリエーションも考えています。既存の取引先とのものづくりとは別に新しいものを開発していくのは大変なことですが、それが次の仕事へと繋がっていくので引き続き商品開発には力を入れていきたいと考えています。

「プルミエール・ヴィジョン」

2013年2月展

丹後より2社出展

2013年2月12日〜14日にパリで開かれる「プルミエール・ヴィジョン」(P.V.)に日本から40社が出展し、このうち1年半ぶりに行われる「メゾン・デ・セブション」エリアには5社が出展する。2011年9月の初回以来2度目となる同エリアは、伝統工芸的な要素も含む匠の技とハイエンドなメゾンやサプライヤーとのビジネスマッチングが目的。前回同展から推薦を受け、丹後から「遊絲舎」(京丹後市網野町)が出展しており、当丹後織物でも紹介したところであるが、その実績を評価され今回も引き続き出展となった。さらに新規に「民谷螺鈿」(京丹後市丹後町)が推薦を受けており、5社のうち2社が丹後からの参加となる。世界のテキスタイル見本市である同展にて、丹後の伝統技術を是非ともアピールしていただきたい。

丹語

きものと言えは正月、お正月と言えはきもの・・・とはなかなかならないのが現実である。きもの「晴着」お正月という図式から確かに新年はメディアだけは露出が多い。丹後はこのシーズン一番気象条件が厳しい時期であり、足下も悪くきものにとって多難な時期である。しかしきもの産地にとってそんなことも言っておれない。昨年末きもの着用で総代会を開催しようという声が上がった。100人がきもので集まればそれなりにインパクトはある。が、いざ声掛けするときものが無い、なら作れば、借りれば、いやそれは高く付く、あつても自分で着れない、面倒だ・・・etc. そんな高くてもいい物を作つて売れない、展望が無いと嘆いてはいないか。日本のアパレルは9割を越えて輸入品で賄なわれている中であつて、きもの素材の自給率は格段に高いことを見ると、恵まれた織物産地だとも言われている。日本文化に直結する衣裳ということから国産指向が強いこともあり、まだまだ活路は見出せるのではないかと。さて民主党自滅後の政権交代、中小零細事業者は景気の浮揚と消費の拡大を願っている。みんなで良い年にしなければならぬ。(M)

丹後先染織物取扱店

情報懇談会の開催

12月7日



西陣からの先染織物の急激な増加に対し、取引条件等の改善を目的に丹後各町の代行店が核となり、各地に先染織物取扱店協議会が組織化され、連合体として丹後先染織物取扱店協議会連合会が昭和50年5月に発足しました。以降組合が事務局を担当し、地域間の情報交換、対西陣メーカーとの取引改善に係る交渉、振興、親睦事業など組合の外郭組織として連携しながら先染織物の振興をはかってきました。

その後景況の悪化による会員の脱会、組織の縮小が続く、連合会組織の維持が困難になったこと、また組合の先染部会に取扱店の委託者、受託者別に分科会が設置されたこともあって、平成9年3月に解散しています。

連合会解体後も10地区で協議会が活動を継続していましたが、この10年間地区の会員数の減少などにより五月雨的に解散が続ぎ、今日現在5地区の協議会が親睦を中心に組織として存続しています。

近年特に最低賃金割れの問題がクローズアップされ、工賃収入の減少が設備更新の足枷となり、また従事者の高齢化と事業の継承が進まないことなど産地衰退の根源的な要因となっています。

この問題の対応には直接的な賃織業者の姿勢もさることながら、取扱店等仲介業者の姿勢も問題化されており、そうした背景を踏まえて、今一度組織強化を訴え、連携を密にする中で取引改善について産地関係者一体となつての取り組みを図る目的で、協議会組織のメンバーと先染理事を交えて情報交換、今後の方向について意見交換の場を持ちました。

また懇談会終了後、信用交換所京都本社より和田善明氏をお迎えし、昨今の西陣産地を取り巻く状況等について講演をいただきました。

なお当日の意見集約を持って後日開催の西陣織工業組合との懇談会に臨んでいます。

定例で開催している丹後・西陣両産地役員による懇談会を12月14日、西陣織工業組合において開催しました。

丹後側からは三宅貞夫先染代表理事をはじめとする先染理事4名、常務理事が出席、西陣側からは服部正毅副理事長他4名が出席し、それぞれの産地の状況、織物振興対策についての意見交換が行われました。

懇談会を控え、両産地の製造環境に係る危機的状況を打開すべく12月7日付けにて西陣織工業組合理事長宛に織物工賃改善の要請(別掲)を強く訴えており、こうした現状を踏まえて熱い議論が展開されました。

また特に今回は、織物現場の状況について認識していただき、今後の行政指導に反映願うべく指導機関である京都府商工労働観光部染織・工芸課から、高屋奈尾子課長、林靖副課長にオブザーバーとしてご同席いただきました。

意見交換の中で最低工賃について西陣側からは「個々でメーカーと代行店との話し合いをしても改善できない。」「廉価商品の帯製造メーカー数社が生産量の半分を占めている。このメーカーの安い工賃が、他の西陣織の業者を圧迫している。」「ルールを作り、目標を決めて適正な工賃を守るようにすればどうか。」「口約束ではなく、

丹後・西陣両産地商況懇談会を開催



契約書を交わすことにより効力が表れてくるのでは。」「などの他、現況についての説明がありました。

丹後側から、丹後側

「丹後の出機」の大半が高齢者で年金を受給しながら安い工賃で仕事をしており、現状の取り上げでは後継者が出来ない。」「高齢化が進めば、西陣の要求する商品も技術的について行けなくなる。技術者を繋ぎ止める、また養成するために工賃のボトムアップが必要。」「安い工賃で仕事を出すメーカーも悪いが、それを受ける丹後も悪い。今後代行店の姿勢も含めて指導していきたい。」「などの他、高齢化による織り手及び織機台数の減少、織機の老朽化について現況報告を行いました。

今回の懇談会を踏まえ、最低工賃の問題等について、お互いの組合にて煮詰めて進めていくよう努力、協力していくことを確認し終了しました。

組合では先染部会の意見に基づいて、昨今の工賃問題について早急に改善を求めべく、12月7日付にて西陣織工業組合に対し、下記の通り要請を行いました。

西陣メーカーの委託製造に係る 織物工賃の改善について（要請）

丹後産地の織物振興につきましては、平素より格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、和装織物業界は、構造的な要因による長期不況に加え国内の政情不安、景気低迷の中で呻吟を続けており、なお脱却の糸口が見出せない状況が続いています。産地の織物業者も年々減少を続けており、産地規模の縮小に歯止めがかからず、西陣織物の委託生産現場も同様に縮小の一途を辿っております。

近年デフレ経済の影響から、当業界も対応を余儀なくされ、生産の主力である西陣帯も廉価品が市場を席巻していると聞き及んでいます。そのしわ寄せが織物の生産現場に向かい、低コストでの製造を迫られることにより、大半が法で定める最低工賃を下回る織工賃での製織が主になっています。

こうした工賃収入への圧迫が後継機業への移行を阻害する中で、織手の高齢化が進んでおり、一方設備の老朽化にも対応が出来ないなどにより、高齢作業者の作業能力、技術力低下、また設備の故障を契機として廃業、撤退が促進され、このまま放置すると限りなく生産現場の縮小が進むこととなります。

すなわち丹後の生産現場の崩壊は西陣織物の生産拠点の喪失に結びつき、西陣織物の生産に大きな影響を及ぼすことは勿論のこと、ひいては和装業界に甚大な損失を与えることも予想されます。

労働の再生産に大きくブレーキを掛けるのが、織工賃の減収であることは否めず、今後西陣・丹後両産地が西陣織物の生産に向けて両輪の機能を持ち続けるためにも生産現場の条件改善が焦眉の策と考えます。

伝統ある西陣織物の維持発展と、丹後産地の育成のため、貴組合傘下の製造事業者に対し、生産を担う丹後の生産現場の実態を今一度ご理解いただき、事業継承が可能な織工賃の支払等待遇の改善に向けた格別のご指導を強く要請いたします。

丹後きものNETでは、きものをもっと楽しむ月間に和装に関する幅広いの知識を学ぶ場として、『きもの学（楽）ネット―秋編―』を開催していましたが、このほど全講座が終了しました。

「秋編」最初の講座は参加者が揃わず残念ながら中止となりましたが、第2回は10月21日、丹後あじわいの郷にて「きもの・キモノ・着物!!カルチャー編」と題して、「ワンポイント!メイク講座」と「ワンポイント!綺麗な着こなしアドバイス講座」を行い、参加者の皆さんはメイクと着物の着こなしのアドバイスを受けた後、当日同会場にて開催された「丹後・食



きもの学（楽）ネット

「秋編」全講座終了



と文化の祭典」を楽しみました。

最後の講座は、11月18日に「きもの・キモノ・着物!!お出掛け編」と題し、参加者26名が、「着物で京都を埋め尽くせ!」を合言葉に発足した団体「キモノジャック」のイベントに参加、三条大橋にて記念撮影を行いました。その後、木屋町にある元立誠小学校にて開催された「きもの文化祭」に参加し、当日は雨が降ったり止んだりと天候が優れませんでした。きもの好きな参加者の皆さんにとって最高の一日となった模様です。

かつて企業や、商店の節季の景品としてお盆には扇子、あるいは団扇を、また暮には日めくりやカレンダーが店名を入れて配られたが、最近では個人商店も少なくなり、また経費の節減もあってか、一頃よりも数が減っている。

「丹後ちりめん女優カレンダー」も、小売り屋さんなどに業界の宣伝グッズとして、また産地ブランドのPRに使われ、丹後内でも機家さんの座敷、事務所、工場に、旅館のフロア、飲食店に掛けられ、産地の宣伝に役買っている。

そもそもこのカレンダーいつ頃より作られたものか。1953年(昭和28年)小売店のPR用に当時の銀幕女優を採用し、ポスターとして製作されたのが始まりで、1971年(昭和46年)からモデルを使ったカレンダーに衣替えし、さらに1977年(昭和51年)より複数の女優さんをモデルとしたカレンダーとして今日に至っている。ポスター時代は、B全サイズの大きなものであったが、カレンダーはレギュラーサイズでスタートし、1978年(昭和53年)から販促用にミニカレンダーがジャンルに加わった。さらに

1980年(昭和55年)製作部数が急激に伸びたこともあり、A全版が加わった。(ミニ版は1989年 平成元年を最後に製作中止)

レギュラーサイズは比較的小さいものを正当に見せたいとして、優雅さ、気品を保った構図になっている。対してA全ポスターサイズは、すこし遊び心を取り入れ、シチュエーションとなる背景の配慮、モデルに動きを取り入れるなど構図も少し冒険的に製作されてきた。カレンダーの機能よりポスター機能を重視して作られている。

昭和50年代の後半には30万部を超えるベストセラーであったが、呉服屋さんや機家さんの数が減るに比例して製作部数も縮小しており、コスト的にも厳しい状況に直面している。

ポスター時代から数えて60年、カレンダーが変わってからも42年と人の年で数えると節目の年になるが、今日ま

丹後ちりめん 四方八方咄 其の九 丹後ちりめん女優カレンダー

(よもやまばなし)



有馬稲子ポスター写真 (昭和28年)

で流石にいろいろいると話題に事欠かなかった。カレンダーのモデル契約はカレンダーに限定されてギヤランティが決められており、知らず



(注)
A全 594 × 841mm
B全 728 × 1030mm

切り抜いて自社のパンフレットに取り込んだ機家さんがあった。当然肖像権の侵害になるわけだが、事前に事なきを得たと記憶している。

夏物を着た女優さんの裾を少しからげ、裸足で波打ち際

に立たせたポーズは賛否両論、また正座のポーズや足切りは、裾模様を隠すとクレームが付き、マニキュアや光り物つけ爪などは御法度であったが、今では昔の話となった。まさにその月に登場の女優さんの自殺未遂と重なったこともあった。冬の背景に半袖姿が写っていたり、光源に向かつて陰が入ったり、背景の表示名が入れ替わったり、小さなミスは事欠かない。担当者は早く月が変われと願ったものである。

織物産地カレンダーは昨年西陣の組合が製作を中断し、長浜産地と丹後の2組合となった。白生地素材産地がなお頑張ってきたものカレンダーを製作し続けているのも皮肉な話である。

さて今年のポスターサイズは従来と指向を変え、3Dと称しきものを後からも追いかけているが、出来栄えは如何に・・・

広告

■ カヤバ直織装置 製造・販売

<http://www.orisou.co.jp/>

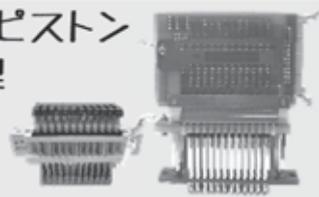
複数柄自動織機、連続製織が出来るのも「直織」ならではです。織創の「直織装置」はカヤバ工業での実績 20,000 台が表す通り、高い信頼性を保証します。型式 NJC-B3/KJC-B3

■ コントローラ 製造・販売

モニターと本体を分離させたので、メンテナンスも楽になり、画面が広くなりました。お客様のニーズに合わせてA型とB型をご用意しました。CGSデータ・CGSⅡデータ対応

A型：シークス製織・紋紙表示修正・正機能・紋紙編集機能 他
B型：紋紙編集機能以外A型と同じ

■ ソレノイド・ピストンの販売・修理

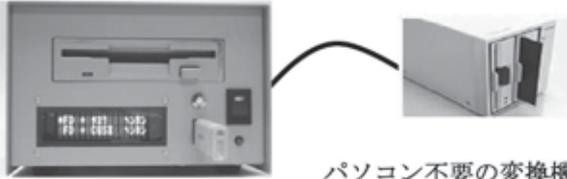
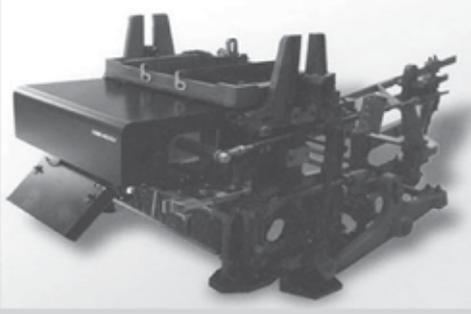


お問い合わせは
各代理店
もしくは織創まで

〒629-3101 有限会社 織創
京都府京丹後市網野町網野 2790-1
☎ 0772-79-0055 〆 0772-79-0056

広 告

佐和・カヤバに対応する CGS・CGSⅡ対応コントローラ

コントローラ「AO」	「AO-Light II」	FD→USB 変換機
		 <p>パソコン不要の変換機</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆佐和・カヤバ(電子含全機種)はケーブル交換で稼働 ◆FD・USB・LAN対応 ◆FD⇄USB 双方向変換が可能 ◆操作は既存と同じ ◆紋掘り修正可能 	<ul style="list-style-type: none"> ◆佐和・カヤバ(電子含全機種)はケーブル交換で稼働 ◆USB対応 ◆タッチパネルで操作は既存と同じ ◆FD⇄USBは「みこし」で対応 	<ul style="list-style-type: none"> ◆FD (CGS) 挿入で USB (CGS II、たすけ形式) に変換、2DD も USB 対応 ◆8吋 FD もドライブ接続可能で、8吋 FD (CGS) が USB (CGS II、たすけ形式) にデータ変換 ◆USB データ変換後は、FD データの柄名を表示、柄名が無い場合は、自動的に番号を作成表示 ◆USB データは「AO・Light II、みこし」に対応
紋紙データ管理「みこし」	USB ドライブ 「たすけ」	
	 A  B 表示機付き	
<ul style="list-style-type: none"> ◆紋紙ファイル管理ソフト ◆FD⇄USB (双方向変換) ◆一つ掘り修正、シーケンス、口数変換、交換列一括変換 ◆メートル表示の枠で配色変更 ◆原価計算 (オプション) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆対応メーカーは、佐和・カヤバ (電子含む全機種) ポーナス、ストーブリ ◆対応データは、CGS II・CGS・たすけ形式 ◆FDドライブ (同寸) に換わる読み込みUSB装置 ◆交換は、FDドライブの電源・フラットケーブルの差し替え。 ◆FD→USBへの変換ソフト「たすけ形式」は標準搭載。対応パソコンは、Windows 7、Windows Vista、Windows XP ◆2柄表示、文字数は英字8文字、USBメモリは64柄入りボタンで柄選択 ◆再起動時、終了時のデータを表示 	
油・バネ張力の問題を解決した		
新型ダイレクトジャカード「AO-DJ」		
 <p>地域資源・技術革新企業 (SBI R) 認定事業</p>	<p>商標登録：登録第 5416906 号</p> <p>特許取得：特許第 4747308 号</p> <p>■ タイプ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西陣 ・桐生 ・エンドレス <p>■ 他社製コントローラと接続できません</p>	

開発・製造・販売 **CSS株式会社**

〒482-0003 愛知県岩倉市曾野町709番地

TEL (0587)37-9131 FAX (0587)37-9061

URL: <http://www.css-corp.jp/> E-mail: ao@css-corp.jp

きもの奥さま よいにさばえ



フォトコンテスト 受賞者 敬称略

推薦 (京都新聞社賞) 「にぎわい」 京丹後市 川戸 久雄



特選 「お姉ちゃんと一緒」 宮津市 能勢 健吉



準特選 「うしろ姿もバッチリ」 京丹後市 藤村 真一

入選 「楽しいきものまつり」 京丹後市 岸村 守
 「なかよし姉妹」 京丹後市 金久 昌和
 「オーチンドンヤサーン」 与謝野町 杉本太一郎
 丹後きものまつり 実行委員会 会長賞
 「きれいなセンスでしよう」 福知山市 足立 等

きもの川柳

受賞者 敬称略

最優秀賞 「機音も 絶えて久しく 着る着物」 京丹後市 堀江 民子

優秀賞 「母の愛 きものまつりで 知る心」 与謝野町 濱中 純子

佳作 「気まぐれに 父の形見に 袖通す」 京丹後市 伊崎 綾子

入選 「若かりし きもの姿に かえりたい」 京丹後市 森山 幸枝

「きもの着て いつもちがう 孫の顔」 宮津市 東山 朝枝

2012 丹後きものまつり in 天橋立

フォトコンテスト & きもの川柳入賞者決定!

昨年10月14日に開催されました「丹後きものまつり in 天橋立」(主催・丹後きものまつり実行委員会)の関連イベント「フォトコンテスト」と「きもの川柳」の入賞作品が決定しました。「フォトコンテスト」には25名の方々から総数66点の応募があり、京都新聞社様のご協力により推薦

(京都新聞社賞)ほか全7点、また「きもの川柳」には20名の方々から39点のご応募があり、宮津番傘川柳会様のご協力により最優秀賞ほか全5点の入賞作品が決定し、去る12月21日の理事会の席上で表彰式が執り行われました。応募作品の一般展示会を下記会場にて行いますので、是非ご覧ください。

展示場所

- ◆ 京都北都信用金庫 本店 (宮津市鶴宮) 平成25年1月15日(火) ~ 1月31日(木)
- ◆ 京都銀行 峰山支店 (京丹後市峰山町) 入賞作品のみ 平成25年2月12日(火) ~ 2月22日(金)
- ◆ アミティ丹後 (京丹後市網野町) 平成25年3月2日(土) ~ 3月31日(日)